

H30 海外臨床実習

番号	氏名	渡航先	国・地域	渡航先での受入期間
1	S. J	メルボルン大学	オーストラリア	H31/1/28-H31/3/15

平成30年度岸本国際交流奨学金による海外活動実施報告書

医学部医学科 5 年

氏名：S. J

日付	内容
1/25	出国
1/28	研究開始
1/28-2/3	実験計画作成
2/4	教授面談
2/5-2/10	実験データ収集
2/11	教授面談
2/12-2/20	実験準備
2/21	教授面談
2/22-2/27	プログラム作成
2/28	教授面談
3/1-3/10	データ解析
3/11	プレゼンテーション
3/12-3/15	データ解析

BMI (Brain Machine Interface) は EEG、ECoG のように脳の情報を活用するのに使われるが、その際に重要となるのが、人体への侵襲の問題である。ノイズのない綺麗なデータと侵襲の程度はトレードオフの関係にあるが、stentrode という血管内デバイスを使用すると、開頭の必要なくノイズの少ないデータの収集が可能となる。今回の実習では3頭の羊から脳波を収集し、それらを用いて DeepLearning により羊の動作を予測するという解析を行った。

この留学に僕が期待したのは以下の通りです。

- この先医師としてのキャリアの中で、海外での生活が必要となった時に全く文化の異なる場所に自分が耐えうるか知りたかった。
- 職場(研究室?病院?)で自分は必要なコミュニケーションを取れるのだろうか知りたかった。
- 今回は研究室に行ったが、自分のキャリアの先に研究者という道はあるのか(研究がしたいか)知るきっかけが欲しかった。
- 海外に友達が欲しかった。

旅行も含めて、海外に行ったことがなかったので海外への憧れがより強かったことも理由の一つです。

寮生活について

今回 Graduate House という大学内にある寮に住みました。朝晩食事付きで週 34000 円くらいです。留学生と地元の人が 8:2 くらいの割合でいます。朝晩バイキング形式で食べるので、必然的に他の住人と話すことになるわけですが、結果的にこれがよかったです。用事を作らずとも自然に人と話す機会があり、色々な人の色々な人生が聞けてすごく楽しかったです。ここでたくさんの友達ができました。

寮というものに住んだことがなかったなので、とても新鮮でした。

メルボルンという町について

日本より住みやすい気がします。気温の年較差は小さく(冬でも 10 度前後)、日較差は大きいです(今は夏ですが、最低気温 18 度くらい)。昼間はラボに行っているので、外に出る時は 5 月くらいの気候で超気持ちよかったです。

メルボルンはアートとスポーツの町です。そこらかしこに美術館や記念館があり、とても全部は行けないほどです。古い建築物が多く残っており、伝統的な西洋建築が立ち並ぶかと思いきや、流線形のドーム状の病院や路地裏にはストリートアートがそこら中に描かれ、それらがいい意味で混じり合い独特の景観を形成しています。

先日全豪オープンが開かれたのもこの町です。ちょうど中之島のように中心地のすぐ近くにヤラ川という川が流れており、ボート競技も盛んに行われていました。

オーストラリアは移民の国で、色々な人種の人たちがいます。だいたい 3 割がアジア系(中国が最多)、アフリカ系の人も結構います。

人は書物、人間、旅の三つからしか学ばない、と言いますが、この留学で自分ができるようになりたいこと、やらなければいけないことを再認識できたと思います。自分の将来についてはまだ見えていませんが、少なくとも海外で生活し、現地の人とコミュニケーション取れるかという心配は少なくなりました。英語に関しては贅言言えばもう少しジョークを言ったり、言外の意味を理解できるようになりたいです。英語は論文や英会話など日本でも十分勉強できると思うので、毎日少しでも勉強しながら、残り一年の学生生活有意義にかつ楽しく過ごしていきたいと思います。

最後に 今回の実習にあたっては、交換留学を準備して下さった阪大の先生方、教えて下さったグローニンゲンの先生方、そして経済的な面で大きく支援して下さった岸本先生に 本当に感謝しています。今回の経験を生かして将来につなげ、また後輩たちが後に続ける ようにサポートしていきたいと思います。本当にありがとうございました。